大阪府

淀川左岸流域・寝屋川流域
下水道事業

大阪府東部流域下水道事務所
ホームページアドレス https://www.pref.osaka.jp/tobugesui/

大阪府広報担当副知事もずやん

令和７年３月発行

当事務所は、淀川以南・大和川以北で実施している、寝屋川北部・寝屋川南部・及び淀川左岸流域下水道事業を所管しています。

管内には、大阪市・守口市・門真市・寝屋川市・枚方市・交野市・大東市・東大阪市・四條畷市・八尾市・柏原市・藤井寺市の計 12 市の流域関連公共下水道があり、流域下水道はそれらの地域から発生する下水の処理を行っています。

流域下水道には、流域関連公共下水道により集めた下水を処理場へ導く幹線管渠、汚水の中継や雨水の排除をするポンプ施設、雨水排除能力を補う増補幹線及び収集した汚水を処理する処理場があります。

渚水みらいセンター　高度処理水有効利用「せせらぎ水路」

大阪府東部流域下水道事務所
〒577-0063 東大阪市川俣町２丁目１番１号　TEL：06-6784-3721（代表）

萱島工区
〒572-0045 寝屋川市東神田町 37 番1号　TEL：072-839-5975

渚管理センター
〒573-1147 枚方市渚内野４丁目 10 番１号　TEL：072-855-0600

鴻池管理センター
〒578-0978 東大阪市北鴻池町１番 18 号　TEL：06-6911-9595

川俣管理センター
〒577-0063 東大阪市川俣町２丁目１番１号　TEL：06-6789-0201

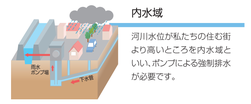
古紙配合率100%の再生紙を使用しています。

浸水対策事業　～ 下水道は浸水被害の軽減に大きな役割を果たしています ～

寝屋川流域の地形

下水道は、台所・風呂・トイレなどの排水（汚水）を集めて処理するだけでなく、雨水を集めて河川へ放流することにより、浸水被害の軽減に大きな役割を果たしています。特に平野部は、雨水が自然に河川へ流れ込まない「内水域」となっており、降った雨は下水管を通してポンプ場から強制的に河川へ排水しています。

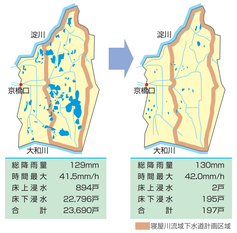
寝屋川流域は、全体面積の３/４が「内水域」になっており、下水道の整備は浸水に対して重要な対策となっています。



寝屋川流域の地形

下水道の整備効果

昭和42年7月8日　　平成11年6月29日～30日



	昭和42年7月8日	平成11年6月29日～30日
総降雨量	129mm	130mm
時間最大	41.5mm/h	42.0mm/h
床上浸水	894戸	2戸
床下浸水	22,796戸	195戸
合計	23,690戸	197戸

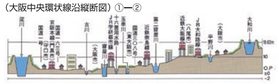
寝屋川流域下水道計画区域

雨水ポンプ

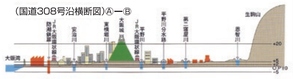
雨水ポンプ場排水状況（新家ポンプ場 楠根川）

地盤高断面図

（大阪中央環状線沿線断面図）①ー②



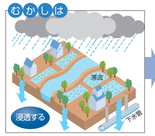
（国道308号沿横断図）Ⓐー Ⓑ



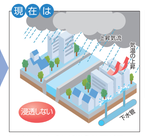
ポンプ場	排水能力
菊水ポンプ場	8.0m³/秒
太平ポンプ場	16.0m³/秒
氷野ポンプ場	23.4m³/秒
桑才ポンプ場	33.0m³/秒
豊島ポンプ場	20.9m³/秒
茨田ポンプ場	18.7m³/秒
深野北ポンプ場	9.6m³/秒
鴻池場内ポンプ	34.4m³/秒
小阪ポンプ場	29.0m³/秒
川俣ポンプ場	49.8m³/秒
新家ポンプ場	40.3m³/秒
寺島ポンプ場	36.0m³/秒
長吉ポンプ場	36.9m³/秒
新池島ポンプ場	24.8m³/秒
深野ポンプ場	18.0m³/秒
楠付ポンプ場	15.0m³/秒
小阪合ポンプ場	19.6m³/秒

雨水排水能力のレベルアップ

現在では、当初計画施設はほぼ完成し、浸水被害は大幅に減少しました。しかし、当初計画時の予想を上回る都市化の進展により、田畑であったところが宅地や道路になったため、雨が地面へ浸透することなく短時間で下水管に流入し、浸水被害が起こりやすくなっています。このようなことから、流出係数を当初計画の約２倍に、降雨の大きさを５年に１度の降雨から 10 年に１度の降雨に変更し、それに対応できるよう増補幹線を建設することとしました。



昔は、田んぼや畑が多かったので、雨が降っても下水管へ雨水が入る前に、地面にスポンジのように吸い込まれていました。

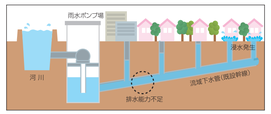


今では、家やビルが増え地面がアスファルトなどで覆われたため、降った雨が、一気に下水管へ流れ込み、浸水被害が起こりやすくなっています。

	当初計画	レベルアップ計画
計画対象降雨	5年に1度の降雨（5年確率）45.1mm/hr	10年に1度の降雨（10年確率）54.4mm/hr
流出係数※	0.21～0.33	0.44～0.66

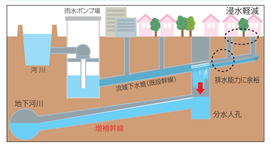
※流出係数とは、降った雨のうち、浸透により消失する量を除いた、直接下水管に流入する水量の比率のことをいいます。
※流出係数の増加により当初計画の5年確率は、レベルアップ計画における約3年確率に相当します。

増補幹線のない場合



寝屋川流域の雨水ポンプ場・既設流域下水管は、都市化の進展による雨水流出量の増大により現在、おおむね3年に1度の大雨にしか対応できません。したがってそれ以上の豪雨の時にはポンプ場・下水管の排水能力が不足し、浸水発生の危険性が高くなります。

増補幹線ができると



増補幹線ができると雨水ポンプ場・下水管の排水能力を超える雨水を途中で増補幹線に落とすため、浸水発生の可能性を低く抑えることができます。

中央南増補幹線（一）
Φ5400mm

シールドマシン
（この機械で地中に増補幹線を築造します）

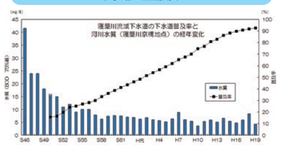
水質改善事業　～ 下水道は河川・海の水質改善に大きく寄与しています ～

汚水処理

寝屋川流域下水道、淀川左岸流域下水道の下水道普及率は約98%（令和5年度末）となり、河川の水質は大きく改善しました。現在は、大阪湾の赤潮の原因となる栄養塩類（窒素、リン）の除去をする高度処理を進めています。

平成 22 年に新しく供用開始したなわて水みらいセンター、竜華水みらいセンターは流入下水の全量を窒素・リン同時除去可能な高度処理施設を導入しています。また、渚水みらいセンターは古くから高度処理を導入しており、延長10kmの放流幹線により処理水を寝屋川に放流することで、寝屋川の河川水量の確保や水質の改善に寄与しています。

下水道の整備効果



渚水みらいセンターで高度処理された処理水は寝屋川へ放流されています。

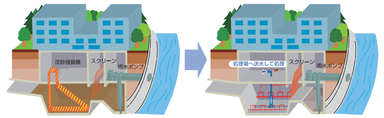
竜華水みらいセンターの高度処理水は竜華都市風の地区内に整備されたせせらぎ水路に送水し都市の潤い空間を演出しています。

合流式下水道の改善

寝屋川流域は雨水対策が大きな事業目的となるため、山麓部等の一部地域を除いて汚水と雨水を同一の管渠で収集する合流式下水道で整備しています。合流式下水道は汚水整備と雨水整備を同時進められるといった利点がある一方、降雨時には雨水によって希釈された汚水が未処理のまま放流されるなどの問題があります。

現在、この問題を改善するためポンプ場の雨水沈砂池のドライ化を積極的に進めています。

雨水沈砂池のドライ化



ドライ化前

ドライ化後

雨水沈砂池は、砂やごみを沈殿除去するためにポンプ場に設けている池です。従来、この池は降雨終了後に水が溜まったままとなり、それが腐敗することにより臭気等の原因となっていました。

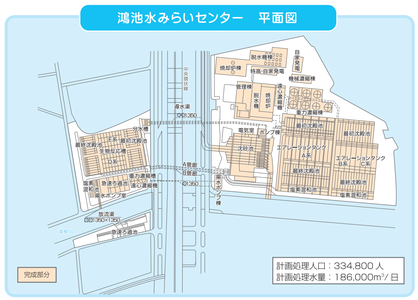
「雨水沈砂池のドライ化」とは、降雨終了後に溜り水をポンプにより吸い上げて処理場で処理するとともに、池を洗浄し、ドライにすることで、次の降雨時に溜まったままの水が放流されるのを防ぐ目的でポンプ場の機械設備を改造するものです。

寝屋川北部流域下水道

寝屋川北部流域下水道は、寝屋川水系における水質保全と内水排除を目的とした寝屋川市他８市にまたがる流域下水道です。

本計画区域は、昭和４０年度に全国にさきがけ、流域下水道を着手した区域であり、鴻池水みらいセンターとその処理能力を補完するなわて水みらいセンターの２つの処理場があります。（区域面積：6875.21ha）

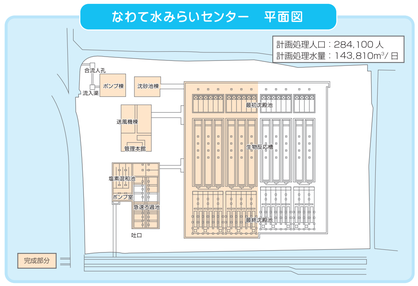
鴻池水みらいセンター　平面図



処理水有効利用「鴻池井路」

鴻池スカイランド　緑の広場

なわて水みらいセンター　平面図



なわて水みらいセンター　せせらぎ水路

なわて水みらいセンター　上面利用

寝屋川南部流域下水道

寝屋川南部流域下水道は、寝屋川水系における水質保全と内水排除を目的とした東大阪市他５市にまたがる流域下水道です。

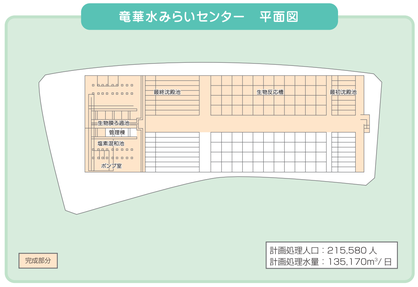
本計画区域は、山麓部および八尾空港周辺を除いて合流式で計画されており、川俣水みらいセンターとその処理能力を補完する竜華水みらいセンターの２つの処理場があります。（区域面積：8874.27ha）

川俣水みらいセンター　平面図

川俣スカイランド　幼児広場

川俣スカイランド　水辺の広場

竜華水みらいセンター　平面図



新たに建設された竜華水みらいセンターの上部には大型商業施設を誘致しています。

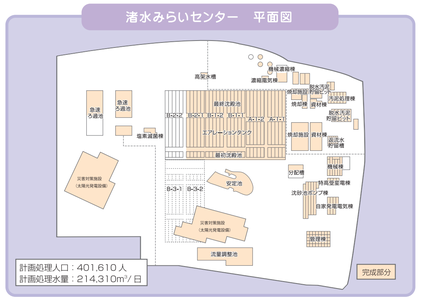
竜華水みらいセンター　せせらぎ水路

淀川左岸流域下水道

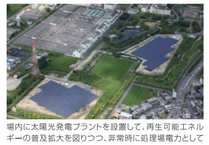
淀川左岸流域下水道は、淀川の水質保全を目的とし、大阪北東部に位置する枚方市、交野市にまたがる流域下水道です。

処理水の放流先は、上水源である淀川への影響を考慮して寝屋川へ放流しており、寝屋川の浄化用水として貴重な水源となっております。（区域面積：5893.2ha）

渚水みらいセンター　平面図



処理された下水処理水を無料で供給する給水施設を設けています。道路への散水や樹木への灌水用水として活用されています。
（施設名：Ｑ水くん、川俣、なわての各センターにもあります）



場内に太陽光発電プラントを設置して、再生可能エネルギーの普及拡大を図りつつ、非常時に処理場電力として活用することで防災力の強化を図っています。

場内に設けた池に小学校のプールから"救出"したヤゴを放流するイベントを開催しています。このイベントは平成3年から開催されており、平成6年には「トンボの楽園」として建設大臣賞　いきいき下水道賞を受賞しました。

場内で高度処理水を使った稲作を行っています。近隣の小学生を招き、田植えなどの体験学習の場として活用しています。

いこいの広場
毎年、春には桜、夏にかけて蓮蒲が楽しめます。